

令和7年度第1回歯科保健医療推進協議会 議事録

開催日時 令和7年12月25日（木）19時00分～21時00分

開催形式 Web会議システム（ZOOM）

1 開会

委員改選後、初めての協議会開催のため、会長・副会長の選出を行った。

山本龍生委員を会長、田口円裕委員を副会長とすることに決定した。

2 議題

（1）災害時における歯科保健医療関係の取組について

＜事務局より資料1・2に基づいて説明＞

（山本会長）

災害時における歯科保健医療関係の取組について、事務局より資料1・2に基づいて説明がありました。これに基づき、委員の皆様からご意見をいただきたいと思います。まず、医療関係団体の皆様からコメントをお願いしたいと思います。

（寺澤委員）

神奈川県歯科医師会の寺澤です。災害時の歯科保健医療については、神奈川県歯科医師会内に災害専任の部署がありますが、まだ連携が十分ではない部分もあります。事務局からのご説明にもありましたように、歯科衛生士会や歯科技工士会と連携し、部会で検討を進める必要があると感じています。今後、具体的な役割分担や体制の整備を進めていくべきだと思います。

（打矢委員）

神奈川県歯科衛生士会の打矢です。災害時には歯科職が連携して対応することが必須です。現在、歯科医師会と連携しながら研修会を毎年実施しています。また、地域の歯科医師会との関係を強化し、支部単位での連携も進めています。災害時の現場での歯科衛生士の動きについても、地域との連携をさらに深めていきたいと思います。

（田島委員）

神奈川県歯科技工士会の田島です。本年度、災害担当理事を設置し、地域の歯科医師会との連携を強化しています。また、災害対策委員会を開催し、指揮系統や医療計画の共通認識を含めた協議を進めています。歯科医師会や歯科衛生士会と連携し、災害時における歯科保健医療体制を整備していきたいと考えています。

（半澤委員）

川崎市健康増進課の半澤です。川崎市では歯科医師会と災害時の医療救護に関する協定を結び、医療救護班として活動していただく体制を整えています。災害時には、まず歯科

医療機関の復旧を優先し、それが難しい場合には避難所での歯科保健ニーズに対応していく方針です。災害時の本部訓練に歯科医師会の先生にリエゾンとして参加をしていたなど、日頃から顔の見える関係を構築し、円滑な連携ができるよう努めています。

(川田委員)

横須賀市では、災害時の歯科衛生士のマニュアルを作っていましたが、今年から保健師、管理栄養士、歯科衛生士が保健活動チームとして一つのチームを組んで動く方向とするため、保健活動チームとしてマニュアルの作成を行い、災害時の体制を整備しています。能登半島地震の際に市の歯科衛生士を派遣しました。その経験を活かし、災害時の対応を具体化していきたいと思います。歯科医師会との災害時の連携はまだ十分とはいえないため、今後の課題として取り組んでいきたいと思います。

(鮎沢委員)

秦野市では歯科医師会と歯科医療救護活動に関する協定を締結し、医療救護所5か所を開設した際には人員の派遣を要請しています。また、総合防災訓練では、毎年歯科医師会と連携し、災害時の歯科保健に関する普及啓発ブースを設置しています。さらに今年は、災害時の歯科保健医療体制の強化を図るため、医療救護所での参集訓練を実施し、顔の見える関係づくりを推進しているところです。

(尾崎委員)

山北町では地域防災計画の中で医療救護所を設置し、必要に応じて郡の歯科医師会に派遣を要請する体制を整えています。ただし、災害時の具体的な運用マニュアルがまだ整備されていない状況です。今後、小田原保健福祉事務所足柄上センターの指導を受けながら、運用マニュアルの作成を進めていきたいと考えています。

(山本会長)

市町村の委員の皆様から貴重なご意見をいただきました。災害時の歯科保健医療提供体制については、本日の議論を踏まえ、部会を設置してさらに検討を進めていきたいと思います。具体的な部会の委員構成については事務局から示された方針に基づき、会長一任として進めさせていただきたいと思いますがよろしいでしょうか。

(山本会長)

委員の皆様から特にご異議がないようですので、そのように進めさせていただきます。

(2) 報告事項

県民歯科保健実態調査の調査結果の概要について

<事務局より資料3に基づいて説明>

(山本会長)

事務局から詳細な調査結果の説明をいただきました。委員の皆様からご意見をいただきました

いと思います。なるべく多くの委員の方々に発言していただきたいと思いますので、コメントがございましたら、1分から2分程度でお願いいたします。ご発言のある委員は举手ボタンを押していただければと思います。いかがでしょうか？

(田口委員)

はじめに、今回のこの調査のそもそも目的についてお伺いしたいと思います。例えば、今回の調査結果を「歯および口腔の健康づくり推進計画（第2次）」の指標のベースラインにすることが目的なのか、それとも別の目的があるのか、確認させてください。

(事務局【健康増進課】)

本調査は主に「歯及び口腔の健康づくり推進計画（第2次）」のベースラインとなるデータを収集する目的で実施しております。令和2年度の調査結果は、計画策定時の参考値として使用しましたが、今回の令和6年度の調査結果を、計画の進捗状況を評価するためのベースラインのデータとして活用いたします。今後、このデータを基に、計画の目標値や進捗状況の評価等を行う予定です。

(田口委員)

それでは、例えば「8020達成者率」の目標値が65%と設定されている中で、今回の調査結果が67%と目標値を超えている状況です。この場合、目標値を変更する可能性はあるのでしょうか？

(事務局【健康増進課】)

今回の調査結果を受けて、目標値の見直しも含め必要に応じて検討する必要があると考えています。ただし、単年度のデータだけで判断するのではなく、過去のデータなどからトレンドを分析して評価することが重要と考えています。次回以降の協議会で、委員の皆様のご意見を伺いながら、議論を進めていきたいと思います。

(海原委員)

特にオーラルフレイルの認知度の向上が重要だと感じました。東京大学の飯島先生が、オーラルフレイルはメタボのように誰もが知る言葉にしたいといわれていました。オーラルフレイルは、県民にとってはまだ馴染みの薄い言葉だと思います。例えば、「オラフレ」というような簡潔なキャッチコピーを使い、広報戦略を工夫することで、より多くの県民に認知してもらえるのではないでしょうか。また、歯周病が糖尿病や心筋梗塞、認知症などの全身疾患に関わるというのもよく聞きます。でも、歯周病がどういうものか説明できる人も少ないと思いますし、それが、全身疾患にどのように影響するのかを分かりやすく説明することも必要だと思います。

(安藤委員)

食生活改善推進団体連絡協議会では、食育に関する調理実習などを行っています。今回

の調査結果の中で、咀嚼良好者の割合に関する項目を拝見し、60代以上では「何でもかんでも食べることができる」と回答した割合が減少しており、咀嚼能力の低下が食生活に影響を与える可能性があるので、特に高齢者の咀嚼能力の低下が課題だと感じました。

私たちの活動では、野菜を多く摂取することや減塩のため噛み応えのある調理法や風味を生かした調理法なども指導しています。自身の経験としても、しっかり噛むためには歯を大切にしなければと感じています。

(奥谷委員)

今回の調査結果を拝見し、子どもたちの歯科保健に関する意識が高まっていることを感じました。特に歯みがき習慣が定着している点は非常に良い傾向だと思います。学校でも歯科検診を実施し、その結果を保護者に伝えることで、歯科の受診を促していますが、それ以外でも定期的に歯科検診を受けているという結果を見て、かかりつけの歯科を持って、歯や口の衛生を保つという意識が定着していると感じました。

一方で、甘いお菓子や飲み物の摂取頻度については課題があると考えています。小学校4年生くらいになると、子どもたちが自分で選んで購入する機会が増え、スナック菓子等甘いお菓子を摂取する頻度が高くなるように感じています。飲み物については、学校では水筒を持参する習慣が定着しており、水やお茶などを多くの子どもたちが飲むようになっています。スポーツドリンクの飲みすぎは体に良くないといった指導もしていますが、その影響もあるのかなと感じました。子どもたちの生活の実態が見れる調査だと思いました。

(西尾委員)

今回の調査結果を拝見し、特に20代、30代の若い労働者に対して、歯科保健と生活習慣病予防の関連性等を周知することが重要だと感じました。

今回の調査結果を企業の産業医や保健師を通じて、周知していく必要があると強く感じました。

(八百委員)

かながわ健康財団では、県民の皆様や職域の方々、地域のリーダーの方、介護予防の観点から高齢者施設を運営されている方を中心に健康教育を行っている。力を入れているのは生活習慣の改善で、そのなかで歯周病対策やオーラルフレイル対策の講義活動や普及啓発を行っている。

今回の実態調査の結果で数字としては多少よくなっているようですが、働きかけとしては一層充実させていきたいと思います。

特に最近は職域に出向いての講義活動の機会が増えていますので、歯科医師会や歯科衛生士会の皆様と協力しながら、啓発活動を強化していきたいと思います。

(則武委員)

詳細な調査のご報告ありがとうございました。

今回の調査結果を拝見し、歯周病と関連がある全身疾患やオーラルフレイルについての周知はまだ行き届いていない点について数字として見せていただき、課題だと感じました。

(村田委員)

しっかりとした調査の実施とご報告ありがとうございました。

全国と比較して、神奈川県民は歯科保健に関する意識が高いということを今回の調査結果から感じることができました。

(浅野参考人)

調査結果に関してですが、外来患者の歯の本数が80歳から84歳で19.4本で維持されているという結果は、長年の8020運動の成果が現れていると感じました。一方で、オーラルフレイルのスクリーニング結果では、70代、80代の方々の危険度が高いことが示されており、特に認知度が低い点が課題だと思います。

後期高齢者のフレイル予防の観点から、広域連合では市町村で実施されている通いの場を活用し、フレイル予防の普及啓発を医療専門職が進めています。また、ハイリスクの方々に対しては、一体的実施の中で口腔機能低下予防事業を展開しており、県内では11市町村が取り組みを開始していますことをお伝えしたいと思います。

(田上委員)

今回の調査結果を拝見し、特にオーラルフレイルの認知度について、44%という結果は、以前より改善しているものの、まだ十分ではないという意見をいただき、さらに普及啓発を進めなければならないと改めて感じました。

海原委員から指摘のあった「オラフレ」という言葉についても、内部ではよく使正在のでわかりやすい言葉での周知ということも含めてさらに周知に取り組んでいきたいと思いました。

(松岡委員)

神奈川県歯科医師会でオーラルフレイルの認知度向上やオーラルフレイルに対応可能な歯科医療機関の拡充に向けて活動を行っています。今回の調査結果を拝見し、オーラルフレイルの認知度をさらに高めるべく、活動に注力していきたいと思います。

また、調査結果踏まえ、県庁が施策の評価について、どのように捉えているのか、具体的なコメントがあるとより良い総括になると思います。

(井上委員)

災害時の歯科保健医療についてですが、高齢者福祉施設では、集団生活の中で災害が発生した場合、感染症対策と同時に誤嚥性肺炎の予防が重要になります。特に、入れ歯の管理や口腔ケアが課題となります。災害時には通常のケアが困難になることが多いです。

施設職員がスポンジブラシや歯ブラシを使って対応していますが、感染リスクを伴うた

め、理想的な口腔ケアの方法について具体的な指針が必要だと感じています。また、災害時における入れ歯の管理や口腔ケアの実施方法について、県や関係団体から具体的な支援や情報提供があると非常に助かります。以上です。

(寺澤委員)

今回の調査結果は報告事項として伺っていますが、非常に詳細な報告ありがとうございました。前回調査である令和2年度との比較もされていましたが、それを踏まえてどのようにアプローチするか、施策を作っていくかということが非常に重要な事項となります。

前回の調査から委員も変わっていますので、前回の調査との比較や国の調査の結果を踏まえ全国と比較したものも含めて示していただければと思います。

(山本会長)

委員の皆様から貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。ちなみに令和6年度の国の歯科疾患実態調査の概要版は昨日の午後公開されましたのでご興味がございましたらご覧いただければと思います。

本日の議題は以上となります。委員の皆様には、円滑な議事進行にご協力いただき、心より感謝申し上げます。

以上